

來賓挨撈



国土交通大臣

全国からお集まりの皆様には日頃より道路行政に対するご理解・ご支援を賜り、改めて厚く御礼を申し上げます。本日「安全・安心の全国からお集まりの皆様には日頃より道路行政に対するご理解・ご支援を賜り、改めて厚く御礼を申し上げます。本日「安全・安心の

お見舞いを申し上げます。私自身、平成26年に発生した地元広島市での大規模土砂災害や平成30年の西日本豪雨を始め、今年も災害

面通行とすることで早期に交通開放することができました。これらはまさに災害に強い道路ネットワークが効果を発揮して事例であ

「道づくり求め全国大会」が開催されますことを心からお祝いし、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、今年も大雨により各地で土砂災害などの甚大な被害が発生しておりまう。改めてこれらの災害の復旧・復興、さらには橋梁などの老朽化対策も

の現場に入り、その被害をり、改めて災害時における目の当たりにして、被害に人・物流の確保に向けた遭われた方々の声を聞いて参りました。国土交通大臣として引き続き、東日本大震災や、近年、激甚化・頻発化する大規模自然災害かいます。

ミッシングリンクの解消、高速道路の4車線化、ダブルネットワーク化の重要性が認識されたところでござ

中根一幸

衆議院国土交通
委員長



來賓挨撈

はじめるに、皆様におかれましては自然災害からの復旧・復興や安全・安心の道づくりを實現するために、日頃から格別のご尽力とご努力を続けておられますことに深く敬意を称する次第であります。

皆様、ご承知の通り、道路は国民の日常生活や経済活動に欠かすことのできな

路の整備が進められており、産業活動の活性化、渋滞の緩和による安全性の向上が期待されています。近年、気候変動の影響により気象災害が激甚化・頻発化し、南海トラフ地震等の巨大地震の迫迫性が高まっています。このような大災害に備え、道路ネットワークを維持強化するためにも、

空間の確保など、安全で快適な道路交通に向けて早急に取り組むべき課題が山積しております。

衆議院国土交通委員会といたしましても、皆様のご意見や採択される決議をしっかりとして受け止め、今後ともご期待に添えるよう最大限の努力を傾注して参る所存であります。

防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策に基づき計画的な対策の実施に全力で取り組んで参ります。

待たなしの課題です。2018年度までの点検で、5年以内に修繕などが必要と確認された地方公共団体の約6万橋のうち、約かりと必要な予算を確保しなければなりません。国土地交通省といたしましては、皆様方の幅広いご意見を賜りながら、国民の皆様の安

3割程度しか修繕が完了しておりません。集中的に修繕を進めるための財源の確保が必要です。さらに、今年の6月には千葉県八街市の通学路で死傷事故が発生しました。子供の安全・安心を守る通学路の交通安全についても、緊急的な対策の実施が必要となっております。

このように道路整備に関する課題は山積しており、予算編成過程においてしっかりと

心・安全の確保、災害に屈しない強靱な国土づくりに取り組んで参りますので、なお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、お集まりの皆様方のご健勝と二層のご発展を祈念申し上げます。国土交通大臣としての、そして、本日はたくさん参加させていだいております国土交通省の代表としての挨拶とさせていただきます。

來賓挨摑



参議院国土交通
委員長

ルス感染症の影響が依然として続く中ではありますけれども、関係者の皆様のご努力によりまして「安心・安全の道づくりを求める全国大会」が多くの関係者の皆様のご参加によりこのように開催されますことをまず、心から祝意、敬意を表したいと思います。

本年も令和3年8月豪雨をはじめとする多くの災害に見舞われ、各地に甚大な被害が発生をいたしました。災害によって犠牲になられた方々に心より哀悼の意を表しますと共に、被災された皆様にも心からお見

変化もあって、生活を支えるインフラとしての道路ネットワークの重要性は益々高まってきていると認識をしております。

ここへきて感染者数の減少などようやく明るい兆しも見えてきておりますけれども、ポストコロナの経済活動を考える場合、また、防災・減災、国土強靱化などの安全面からも高規格道路の整備、4車線化、ダブルネットワークの構築などを着実に進めていくことが重要だと認識をしております。

一方、我が国が直面する

意見発表



村井嘉浩

全國高速公路建設
協議會會長

本日は、齊藤国土交通大臣を始め、国会議員の先生方、関係機関の皆様には、ご臨席を賜りまして誠にありがとうございました。

9月30日をもって全国で解除となりました。予想される第6波に備えつつ、ポストコロナ時代の『新たな日常』を見据え、疲弊した社会経済活動を立て直していくため、1日も早い高規格道路のミッシングリンクの解消、暫定2車線区間の4車線化による機能強化は必要不可欠であります。

また、激甚化・頻発化する災害対応も喫緊の課題となっております。昨年、熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した令和2年7月豪雨では、多くの方が被災されました。今年に入り、2月の福島沖地震をはじめ、先月には千葉県北西部地震など、全国各地で地震が相次いでおり、近く想定される首都圏直下地震や南海トラフ地震への備え、そして激甚化する自然災害から国民の安全・安心を守るため、防災・減災、国土強靱化の取り組みを着実に進めていかなければなりません。今年度から防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策がスタートを切りました。

この対策を進めるため、必要な予算を確保し、計画的に事業を執行していく必要があります。

東日本大震災の発生から

意見発表



新潟県加茂市長

ていただきます。

加茂市は新潟県の中央部に位置し、人口約2万5千人の市です。ここで暮らし、2人の子供を育てる中で、まさにこの大会の名の通り、安全・安心の道づくりの必要性を実感しています。

私の娘は生まれつき障害があり、医療的ケア児でもあります。幼い頃は、病院へ駆け込み、救急の対応をお願いすることが頻繁にありました。高度な救命救急医療を受けるには30km離れた新潟市へ1時間かけて行かなくてはなりません。

繋がるしっかりした道路があれば、どこに住んでいても高度な医療を平等に受けられるのではないかと、今はそう思えるようになりました。

その娘が生まれたのは平成16年の中越地震が発生した日の1週間前です。地震が発生してからは生まれながら子供が病気であること、ショックと、余震の恐怖、そして必要な医療物資・生活物資が届かないのではないかという不安が重なって、毎日泣いていたことを思い出します。実際のこところは、中越地震のときは

道路と言えると確信しています。

さらにもう一つ、子を持つ親としていつも心配しているのが交通事故です。加茂市においても平成29年に、道路横断中の小学生が軽自動車にはねられ亡くなったという事故が起きています。未来ある大切な命が瞬にして奪われた事故で、大変悲しく、胸が締め付けられる思いでした。子供達の安全と安心と、そして命を守るためにも通学路や地域の生活道路における交通安全対策の必要性を日々痛感しています。

ら、今年3月で10年を迎えました。国で進めていたたきました復興道路・復興支援助道路の整備は順調に進み、10年の節目となる3月には、三陸沿岸道路の宮城県内区間が全線開通し、残る野田久慈道路につきましても今年度中にも開通する見通しとなっています。横軸の復興支援助道路につきましても、釜石自動車道、宮古盛岡横断道路が完成し、更に、みやぎ県北高速幹線道路も今年度中に開通する見通しであり、復興への礎として、そして東北の活性化に向け、地域住民に新たな希望の灯を灯してくださいます。

自然災害の脅威から地域住民の命を守るため、或いは物流の円滑化による経済活性化など、地域が抱える様々な課題を解決していくためには、高規格道路から市町村道まで、将来にわたって持続可能な道路ネットワークの整備と維持管理が不可欠であります。長期安定的に道路整備や管理をし、しっかりと進められるよう、我々全高速といたしまして、新たな財源の創設、来年度の道路関係予算の満額確保に向け、お集まりの皆様と二丸となって取り組んで参る所存でございます。

司會



立谷秀清
道路整備促進期成同盟
全国協議会副会長